

2015年3月5日
イオン株式会社

植樹、ボランティア活動、普段のお買物でできること 東北の未来に向けて イオンはこれからもお客さまとともに歩んでいきます

3月9日（月）～11日（水）「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施

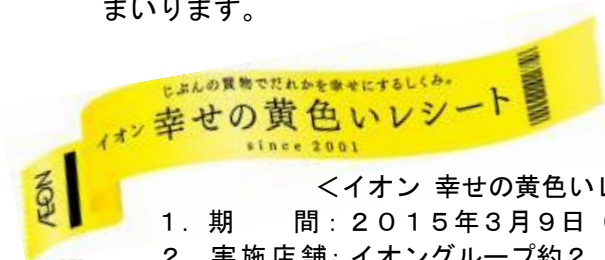


イオンは、2011年3月11日に発生した東日本大震災直後より、グループの総力を上げて東北復興支援に取り組んできました。2012年3月には、「3.11復興への願いをカタチに」の確固たる決意のもと、同年より10年間にわたり労使一体となって、のべ30万人のボランティア活動、東北沿岸部への合計30万本の植樹活動を実施することを発表しました。以降、新規出店による地域経済の活性化や、植樹やボランティア活動、次代を担う子どもたちを応援する企画の開催など、さまざまな取り組みを実施してきました。

間もなく震災発生から4年を迎えますが、被災地では現在も避難者約22万人、仮設住宅にお住まいの方約9万人（※復興庁データより）が不安な暮らしを送られています。

イオンは、こうした被災地の状況をふまえ、今後も継続的な支援を実施するために、今年も3月9日（月）～11日（水）に全国のイオン・ダイエーおよびグループ各社約2,500店舗において被災地の支援を目的とした「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施します。このたびのキャンペーンでは、毎月11日の通常のイオン・デーを3日間に拡大し、お客さまから投函いただいたレシートの合計金額の1%を、岩手・宮城・福島3県の被災された子どもたちの「くらし」と「学び」を応援する育英基金に寄付し、健やかな成長にお役立ていただきます。

イオンはこれからも、東北の皆さまが夢を抱ける未来に向けて、お客さまとともに歩んでまいります。



<イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン概要>

1. 期間：2015年3月9日（月）～11日（水）
2. 実施店舗：イオングループ約2,500店舗
イオンリテール(株)、イオン北海道(株)、イオン九州(株)、イオン琉球(株)、
(株)サンデー、(株)ダイエー、(株)ボンベルタ、イオンスーパーセンター(株)、イオンビッグ(株)、
MV北海道(株)、MV東北(株)、MV東海(株)、MV中部(株)、MV西日本(株)、
MV九州(株)、(株)光洋、MV南東北(株)、MV関東(株)、MV長野(株)、MV北陸(株)、
(株)マルナカ、(株)山陽マルナカ、イオンマーケット(株)、
イオンモール(株)とイオンタウン(株)の各社専門店
(一部店舗を除く)※MVはマックスバリュの略称
3. 寄付先：岩手県「いわての学び希望基金」
宮城県「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」
福島県「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」



これまでも・これからも イオンはお客さま・地域の皆さまとともに 東北の未来につながる活動を続けてまいります

【新規出店を通じて地域を元気に】

イオンは、事業活動を通じた被災地の地域経済の活性化に向けて、東北エリアへ積極的に出店し、便利で魅力あるライフスタイルの提案はもちろん、雇用の創出、地元企業の施設内出店や商品仕入れを行い、地域の皆さまとともに明るい街づくりに取り組んでいます。



2014年7月にオープンした「イオンスーパーセンター陸前高田」では、オープンに向けて約120人の方を店舗スタッフとしてお迎えするとともに、専門店8店舗のうち5店舗で岩手県内で本社を構える地元企業に出店いただいています。

震災発生後、イオンスーパーセンター(株)は大船渡市と陸前高田市にて出張販売を開始し、その後イオンリテール(株)が両市内にて仮設店舗（イオン大船渡店・イオン陸前高田店）の営業および仮設住宅への移動販売を行ってきました。2012年10月には、衣料品のお買物にご不便を感じておられるという地域のお客さまの声を受け、陸前高田市に「イオンスーパーセンター陸前高田衣料館」を出店しました。その後、仮設店舗や衣料館での営業を通じて、お客さまより幅広い食料品や家庭用品へのご要望を多数頂戴し、2014年7月、衣食住を取り扱う「イオンスーパーセンター陸前高田」が開店しました。地域の皆さまのつどいの場として、新たな活力と笑顔があふれるお店を目指しています。

また、行政や地域団体の皆さまと手を携え、安全・安心の取り組みも一層強化しています。イオンスーパーセンター(株)は陸前高田市ならびに大船渡市と災害時における防災協定を結び、生活物資等のご提供のほか、両市が推進する防災啓発事業に積極的に協力しています。さらに、防災・津波避難訓練を定期的実施し、万一の際の避難誘導やお客さまの安全確保など、従業員の初動対応を実践的に訓練するとともに、マニュアルの実動性の検証を行います。

イオンはこれからも、東北エリアへの積極的な出店を通じて、地域経済の活性化ならびにコミュニティの形成の一助となるべく取り組んでまいります。



近隣の仮設住宅の皆さまにご利用いただく移動販売車



産直コーナーで使用される商品陳列什器は陸前高田市に隣接する住田町の木材を使用



「HAIR AVENUE 海岸通り」陸前高田市出身の地元美容院

【「イオンスーパーセンター陸前高田」オープンへのあゆみ】

2012年

10月 ◆「イオンスーパーセンター陸前高田衣料館」オープン（26日）

衣料品のお買物にご不便を感じておられるという地域のお客さまの声を受けてオープン。
（※2014年6月1日まで営業し、イオンスーパーセンター陸前高田へ移管）



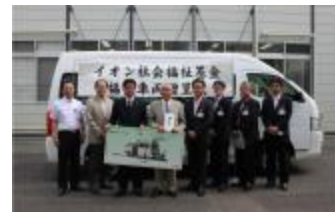
2014年

6月 ◆植樹祭を開催（22日）

開店を祝い、地域のお客さま600名とともに地域に自生する苗木5,000本を植えました。



- 7月 ◆横断旗100本を陸前高田市交通安全協会に贈呈（2日）
◆陸前高田市と「災害時生活物資供給等に関する協定」を締結（11日）
◆陸前高田市の株式会社藤吉「絆ケアセンター」へ「イオン社会福祉基金」を通じて福祉車両を贈呈（11日）



◆防災・津波避難訓練（12日）



オープンを前に、防災・津波避難訓練を徹底

◆米崎郵便局開局（14日）



◆ソフトオープン（17日）

◆グランドオープン（19日）



商品・サービスを通じて

【届け東北のまごころ～東北のとびっきりのおいしさを～】



イオンは2012年より、「届け！東北のまごころ」をテーマに、東北産の商品を東北エリアの店頭及びカタログを通じて販売するとともに、お買物がままならないエリアでは、移動販売車による販売を実施しています。これからも、復興に向けて懸命に取り組む生産者さま、お取引先さまとともに、東北の地域産業を盛り上げ、応援するべく「届け東北のまごころ」の販売を継続して取り組んでまいります。商品は東北エリアの総合スーパー「イオン」をはじめ、全国の「イオン」店頭のカatalogを通じてお求めいただけます。



「希望の干し」
(宮城県)



「柚子の故郷」
(福島県)



【東北地域の特産品フェア】



行政や地域団体の方々と協同して地域の味、文化を伝える企画を開催しています。会津若松市と協同で開催した「会津フェスタ」は、2014年度はイオン8店、ダイエー1店で開催しました。野菜や地酒、味噌、喜多方ラーメンなど地域の味はもちろん、会津民謡を伝えるパフォーマンスや紙芝居、赤べこの絵付け体験など、地域の文化を知るさまざまな企画が催されました。

また、地域の観光協会やNPO団体・水産加工業者さまなどのご協力のもと、三陸地方の魅力をお届けする「三陸まつり」をイオン7店舗、イオンスーパーセンター4店舗、マックスバリュ10店舗において開催しました。牡蠣や帆立などの海の幸をお届けするとともに、三陸鉄道の北リアス線を模したジオラマの展示、さんさ踊りのパフォーマンスなど、三陸地方の魅力あふれる企画をご提供しました。



【東北復興支援WAON】



「東北復興支援WAON」は、2012年5月11日に発行され、ご利用金額の一部を岩手、宮城、福島3県の被災された子どもたちの「くらし」と「学び」を応援する育英基金にイオンが寄付するものです。「日々のお買物を通じて、どこにいても東北を応援できる」と多くの方にご利用いただき、「ご当地WAON」の仕組みに基づき、2013年度年間ご利用金総額の0.1%となる4,781,058円(岩手県1,376,884円、宮城県1,586,156円、福島県1,818,018円)を寄付しました。

植樹・ボランティア活動

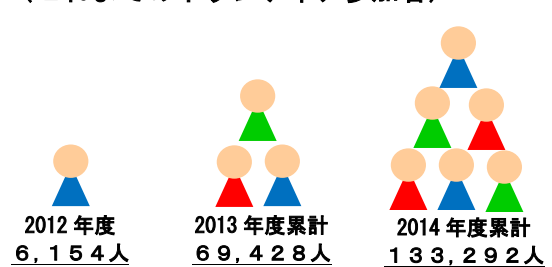
イオンは、震災発生直後から現在まで、グループ従業員が一丸となり、さまざまな形で東北地域での環境・社会貢献活動に取り組んでいます。2012年からは労使一体で現地ボランティア活動などをすすめる「イオン 心をつなぐプロジェクト」を始動させ、グループ全体で東北の緑の再生を目指す植樹活動をはじめ、ふるさとの再生とコミュニティの活性化に向けて地域の皆さまとともに取り組んでいます。東北沿岸部の緑を再生するために、2012年より10年間で30万本の苗木の植樹、30万人のボランティア参加を目標に掲げ、2014年度累計で106,997本の植樹を実施し、133,292人のイオン従業員がさまざまなかたちでボランティア活動を推進しています。

これからも、東北地域が自然豊かで人々の笑顔があふれる地となることを願い、お客さま・地域の皆さまと手を携え、ともに歩んでまいります。

(これまでの植樹本数)



(これまでのボランティア参加者)



(2014年度の主な植樹活動)

3月	イオンタウン釜石/イオン多賀城店	11,170本	
4月	陸前高田ヤルキタウン	2,200本	
5月	岩沼市 神明社/釜石鉱山跡地/岩沼市「千年希望の丘」	7,280本	
6月	一関市 室根山/名取市 東北森林局/東松島市 白髭神社/ イオンスーパーセンター陸前高田/三陸鉄道 南リアス線 甫嶺駅	17,054本	
7月	気仙沼市 お伊勢神社	70本	
9月	気仙沼市 大島 亀山/気仙沼市 大島 田中浜	12,300本	
10月	気仙沼市 階上/大槌たすけあいセンター/ 三陸鉄道 南リアス線 陸前赤碕駅/東松島 奥松島嵯峨溪 八幡神社	13,995本	
11月	気仙沼市 階上	4,021本	

2014年度計 **69,317本**



苗木の里親キャンペーン

全国のお客さまにお渡しした苗木を一年かけて 育てていただき、その後東北沿岸部で植える取り組み。お客さまの想いがこもった苗木が東北の各地で根をはっています。



鎮守の森づくり

古くからその土地の守り神として鎮座する神社も、震災により社殿や境内の木々が大きな被害を受けました。敷地内に木を植え、鎮守の森を再生させる取り組みです。

(今後の取り組み)

今年も東北エリアの沿岸部を中心に、植樹活動を実施していきます。

4月には、福島県いわき市久ノ浜の防災緑地において植樹祭を開催予定です。

グループ各社の取り組み

【語り部講演会の実施】

東日本大震災の経験を話される語り部の方々をお招きし、震災時の記憶をお話いただいています。これまでに一般社団法人「陸前高田語り部」くぎこ屋代表の釘子 明さまや、NPO法人「遠野まごころネット」理事長の白澤 良一さま、富岡町社会福祉協議会「おだがいさまセンター」代表の青木 淑子さま、語り人である吉野 明日香さまをお招きし、被災地の現状と課題やご自身の体験などをお話いただきました。震災がもたらした被害、被災地において今求められていることなど、被災者の言葉から感じられる貴重な機会として、グループ約25社の従業員が参加しています。

【「おのくん」プロジェクト】



「おのくん」は、東松島市の仮設住宅にお住まいのお母さん方が作るソックスモンキー（新品のソックスでできたモンキー）です。「おのくん」を里子に出すというコンセプトのもと、里親である購入者の方々と東松島市のお母さん方をつなぐ存在と



なっています。イオンモール(株)、(株)光洋、イオン北海道(株)、(株)イオン銀行、イオントップバリュ(株)などの企業が「おのくん」の製作・販売応援を実施しています。また、イオンモール(株)は、「おのくん」の生まれ故郷である東松島市の「空の駅建設支援募金」3月1日より実施し、「空の駅」の建設ならびにそこで行われる東松島市を元気にするさまざまな活動に役立てるべく取り組んでいます。

【「オーガビッツ」プロジェクトへの参加】



「オーガビッツ」は、繊維専門商社の豊島株式会社が推進するオーガニックコットンを通じてみんなで“ちょっと (bits)”ずつ地球環境に貢献しようという社会貢献プロジェクトです。衣料品専門店「セルフ＋サービス」を運営するイオンリテール(株)のセルフサービス事業部と「ikka」を運営する(株)コックスは、この取り組みに賛同し、「さくら並木プロジェクト」に参加しています。同プロジェクトは、東日本大震災の津波の被害を風化させないため、また将来起こりうる津波の際に避難の目印とするために、東北の津波最高到達地点に桜を植樹する活動です。対象商品の購入により、お買い上げ1点につき10円が同プロジェクトに寄付され、活動に役立てられます。

【サクラチャリティプロジェクト】



ザ・ボディショップは、2011年3月に「サクラチャリティプロジェクト」を立ち上げ、想いやりの絆を形にする長期的、継続的な復興支援として売上の一部や店頭募金を被災地の今と未来に役立てる取り組みを実施してきました。2015年度は、新たに「援助ではなく、取引を」をテーマに岩手・宮城・福島4団体のパートナーが製作した「THE HOPE チャーム」を販売しています。商品を購入いただくことにより、売上から諸経費と寄付金を差し引いた全額が製作パートナーの収入になるほか、一部を防災啓発活動に活用されます。



THE HOPE CHARM

「人々、コミュニティ、地球の希望になる」という想いが込められたデザイン



ザ・ボディショップ サクラ シリーズ

日本の春をイメージした優美なサクラの香り
チャリティ対象商品の売上の一部を復興支援活動に寄付

次代を担う子どもたちへ 夢のある未来を

【子どもたちの夢・応援プログラム】



一般財団法人イオンワンパーセントクラブは、「子どもたちの夢・応援プログラム」を2012年より開始し、スポーツや音楽、文学好きの子どもたちに向けてさまざまなプログラムを実施してきました。2012年に実施した第一弾「東北から夢を」では、宮城県七ヶ浜町の汐見小学校の子どもたちにロンドンオリンピックへ出場する体操選手がスポーツを通じて、交流し、夢をもつことの大切さを伝えるイベントを開催しました。ロンドンオリンピック 体操で見事金メダルを獲得した内村航平選手は、ウィニング・ランの際に子どもたちの応援メッセージが寄せ書きされた応援旗を背に駆け抜けました。オリンピック終了後には、日本代表選手19名が再び同校を訪れ、成果報告や応援旗の返還、応援への感謝の意を伝える会を開催しました。

【AEONふるさと発見伝】※子どもたちの夢・応援プログラム



女優 浅野 温子さんの読み語りを通じて東北の被災地に伝わる寓話を地元中学生に聞いてもらい、ふるさとの良さを知ってもらう活動を実施しています。2014年度は、気仙沼市で開催し、参加者の皆さまからは「気仙沼の物語に触れることで、私たちがこのような素晴らしい物語を伝承していかなければいけないという責任感に気付くとともに、地域にもっと興味を持つことができました」という声や「御崎神社に祀られている神様について知ることができ、よりこの神社を身近に感じるようになってよかった。登場人物によって変わる、声、演技に女優魂を感じた」などの感想が寄せられました。

【音楽に夢をのせて】※子どもたちの夢・応援プログラム



子どもたちに音楽の素晴らしさや夢をもつことの大切さを伝えることを目的に、2013年1月から開催しています。音楽の都ウィーンを中心に世界で活躍するウィーン・オペラ・舞踏管弦楽団による演奏指導や演奏会に、開催地周辺の中学・高校の吹奏楽部生徒たちを招待しています。1回目の開催より、宮城県内の音楽好きの子どもたちとそのご家族を招待しました。コンサート前日には日本最大の仙台ジュニアオーケストラのメンバーへの演奏指導が行われ、子どもたちはプロと合同演奏を実施しました。今年1月に開催された2回目も、仮設住宅で暮らす東日本大震災の被災者約1,060名を招待し、プロと同オーケストラの子どもたちによる合同演奏や、音楽の都ウィーンから届けられた生演奏を楽しみました。